

# れいげん

大光山 霊源寺 寺報 第六号



発行：2016年3月

## < 住職あいさつ >

この3月26日に北海道新幹線が開通し、東京と函館間が、およそ4時間ほどで行き来できるようになるということです。

15年後の2031年には、札幌まで新幹線がやってくる予定です。その頃には、どれくらいで東京と札幌がつながるのでしょうか。

ところで、極楽と今私達が生きる世界は、どれほどの隔たりがあるのでしょうか。

**「極楽は 十万億土 へだつれど 称えるたびに 往き戻りつ」(徳本行者)**

亡き人を偲び、南無阿弥陀仏とお念仏を称えるとき、遠い彼方へ行ってしまった亡き方を、身近に感じる場合があります。お念仏を極楽とこの世を結ぶ新幹線のような存在と頂戴するかそうでないか、私達自身のあり方にあるように感じます。

科学技術の進歩もさることながら、私達の心もお念仏の中に朗らかに進歩してゆきたいものです。



(春の知恩院)

## < 浄土宗① >

宗祖法然上人のはなし⑥(お念仏 編)

今回は南無阿弥陀仏についてのおはなしです。

【南無阿弥陀仏】の六文字といえば、日本で一番広く知られている仏教用語ではないでしょうか。

おそらく誰もが一度は称えたことがあることと思います。

私も学生時代に通学途中の電車で急な腹痛に襲われた時などは藁にもすがる思いで強く念じていました。

よく、進退が窮まった場面、絶体絶命な状況でよく使われているイメージです。現在では文字通りの意味での絶体絶命な状況に自分が置かれることはあまり無いと思いますが、戦争や災害、飢饉、医療の未発達な時代には常に死と隣り合わせ、つまり絶体絶命な日常を生きていかなければなりません。

浄土宗が開かれた平安末期はまさにその全て(源平合戦、大飢饉、大地震、平安京大火事)がそれも同時期多発的に起こっていました。

「南無阿弥陀仏と称えれば、極楽へ往くことができる、そこでまた生前親しかった方々と再開することができる。」という教えは地獄のような現実を生きる人々にとっての一筋の光明となったことでしょう。

ですが、厄介なもので自分の生命に余裕ができると、今度は欲張ってしまい現世利益ばかりを求めてしまいます。それはそれで、自分自身を苦しめる。。

もちろん当時と比べると、とてもいい世の中になりましたが、たまには一息ついて、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えてみてはいかがでしょうか？

〈霊源寺の歴史～歴代管理人編②〉

今回は博眞閣が完成する平成 10 年くらいまでの話をしました。今回はその後のお話となります。

増田さん・須貝さんの女性二人の後は**稲童丸（いなどうまる）**さん夫妻が霊源寺の管理人として札幌からやってきました。

お二人はもともとラーメン屋を経営されており、奥様が札幌新善光寺で事務をしていた藤森さんという方の親しい友人でした。その様なご縁があり東京まで来ることになりました。

時代はちょうど葬儀業界の潮目が変わり始めた頃、葬儀はだんだんと縮小化されていき、霊源寺の近郊にも葬儀斎場が何ヶ所も建てられました。

そうして、今までは毎日のように入っていた葬儀もだんだんと件数が減っていきました。そんな中でもお二人は霊源寺を元気あるお寺へと日々奮闘されました。

朝のお勤めは日々欠かすこと無く、木魚の音は近隣に響き渡っていたそうです。

余談ですが、夫婦の作る餃子は絶品で、学生時代には霊源寺の二階に下宿し大学へと通っていた副住職もたびたび美味しくいただいていたそうです。

(次項へ続く)

〈霊源寺の歴史 続き〉

博眞閣が納骨堂として新たに生まれ変わり、次の管理人として、石山さんが来られる平成 22 年までの 13 年間という長きにわたり霊源寺の管理人として務めていただきました。現在、お二人は札幌へと戻られ、元気に過ごされています。そして、新善光寺の行事の際にはお手伝いいただいております。

ちなみに現在も餃子の美味しさは健在です。



( 稲童丸夫妻 於：博眞閣落慶式典 )



( 愛用の木魚 )

◆行事予定

平成 28 年 3 月 23 日(水) 午前 11 時より

・春彼岸法要

平成 28 年 9 月 25 日 (予定)

・秋彼岸法要

◆編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。  
本寺報「れいげん」も早いもので6号目、年2回発行ということで、3年が経ちました。

「桃栗三年 柿八年 梅は酸いとて十三年 なしのバカやろ十八年 達磨五年で 我一生」

今後も頑張って発行を続ける所存ですので、末永くお付き合いの程、よろしく願い申し上げます。

(中村尚平)

◆次号予告

次号は平成 28 年 9 月の発行予定です。

〒142-0063

東京都品川区荏原 1-1-2

宗教法人 大光山霊源寺

TEL03-3494-1083 FAX03-3494-6319

Mail: [reigenji@gmail.com](mailto:reigenji@gmail.com)

ホームページ: <http://reigenji.konjiki.jp/>

発行人/太田眞琴